

- 調査対象 従業員30人以上の会社／役職が課長以上／「パーパス」を知っていると回答したビジネスパーソン
- 調査方法 インターネット調査 ・有効回答数 850人
- 調査時期 2023年1月20日～1月23日

パーパスを策定している企業は 41.3%

ここ数年、サステナブル経営やESG投資、DXの推進など、経営について新しい考え方や取組みが紹介されるたびに、企業としてのあり方、存在意義が問われることが多くなってきたように思う。

欧米などの先進企業の影響といえばそれまでだが、ビジネスのグローバル化が進む状況にあって、無視できない雰囲気がある。

パーパス経営とは

「パーパス経営」という経営手法がある。今回の調査によれば41.3%の企業がパーパスを策定しているという。

ビジネスにおけるパーパスとは“存在意義”と訳され、自社の存在意義を再定義し、社会貢献や社会課題解決の実現などに向けた考え方、価値観に基づく経営をパーパス経営という。

一見すると、これまでの企業理念と大きな違いはないようにみえるが、自社の存在理由や意義について、社会との関係を明確に示している点で、パーパスは企業理念よりもSDGsやESGなどに通じる新しさがある。

パーパスは企業理念に含まれている …………… 20.0%

パーパスと企業理念との関係性については、「パーパスは企業理

念に含まれている」が20.0%でもっとも多く、以下、「どちらかというとパーパスと企業理念は同じである」14.5%、「パーパスと企業理念は別物である」13.6%などが続いている。

今回の調査で、回答者が所属する会社の企業理念やパーパスの内容について窺い知ることはできないが、調査結果を見る限り、パーパスと企業理念を同義と捉えてい

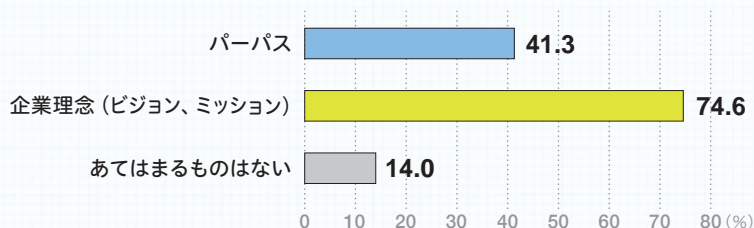
る人が多いようだ。

パーパスという考え方はすでに多くの企業およびその従業員に受け入れられているとみられる。

自らが所属する会社の“存在意義”は何か。パーパスにする企業理念にする、いま一度読み直してみるのもよいかもしれない。

(インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊) ▲

パーパス、企業理念の策定状況【複数回答】 (n=850)



パーパスと企業理念 (ミッション・ビジョン) との関係性【上位5位まで】 (n=850)

